

皆様あけましておめでとうございます。先生方には良き新年を迎えられた事と思います。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

昨年を総括する漢字は「災」で、本当に災害の多い年でした。大雨や多くの台風が襲来し、10月23日には新潟県中越地震があり、年末にはスマトラ島沖地震とそれに続くインド洋大津波があり未曾有の大惨事が発生し、年が明けましても救護活動や復興の目途が立たず混沌とした状態です。その様な状況で、私たちも赤十字の一員として新潟県の被災地に救護班チームを、そして初めての国際救援としてスーダン難民救済のためにケニア、ロピディン戦傷外科病院に7月より6ヶ月間看護師の派遣を行いました。今後とも県内外の救護業務に病院として協力できる体制を整える所存です。

赤十字病院は管理型研修病院として研修医の指導教育を含めて、医局を充実させることにより医療の質の向上を計り、病診連携・病病連携に十分応えられる病院を目指しています。

今後とも先生方と協力して地域医療に貢献していきたいと考えています。ご指導ご支援宜しくお願い致します。

院長 高良 英一



新年明けましておめでとうございます。旧年中はたいへんお世話になりありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ところで「2004年今年の漢字」は「災」でした。年末のスマトラ沖地震が2004年を象徴しているように思います。「災も3年」ということわざがあります。今年は『幸』な年になると信じています。

さて、当院では今年もこれまで以上に医療連携を進めていきたいと考えています。もちろん先生方のご協力が必要です。地域医療の充実には、診療所と病院の役割分担、それに根ざした医療連携が重要です。当院では、質の高い医療を提供できるよう職員一同努力していきます。また、よりよい医療連携の構築には先生方からの貴重なご意見等が大事だと思っております。当院における問題点はどんどん改善していくつもりです。気がついた点がありましたら、何でも何時でもご指摘いただければ幸いです。

(地域医療連携室 TEL: 836-5691、FAX: 836-5683)

今年も先生方にとってすばらしい年であるようお祈り申し上げます。

地域医療連携室長 大嶺 靖



新任Dr紹介

人間ドック 石川 守



平成17年1月に水戸赤十字病院から沖縄赤十字病院へ転勤して参りました。

昭和63年に琉球大学を卒業して以来17年ぶりの沖縄ですが、変化に驚いております。大学在学時代から予防医学に興味があり、国立水戸病院等で臨床経験を積みながら、杏林大学で赤松教授の下、公衆衛生学も勉強して参りました。

健康長寿県沖縄が脅かされている現状ですので、諸先生方の御協力を頂きつつ公衆衛生的な観点も踏まえながら、予防医学を発展させていけたらと希望しております。

今後とも諸先生方のご指導等、よろしくお願い致します。

産婦人科 上地 秀昭



平成16年7月より赴任いたしました。琉球大学を平成10年に卒業し、産婦人科医局に入局、その後中頭病院、静岡県の聖隷浜松病院に勤務し周産期医療の研修を主に勉強してまいりました。最近では20代30代の子宮頸癌が増えてきていますが、初期であれば妊孕能を保存しつつ治療できるので、早期発見する意味でも癌検診の重要性を伝えていきたいと思っております。

また、周産期医療は久しぶりなのですが、沖赤は母体搬送も多く周産期管理の大変さを感じています。しかし、NICUの管理及び産科・小児科の連携がすばらしく、周産期医療のやりがいもまた感じております。

今後産科・婦人科と頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

皮膚科 上原 絵里子



平成17年1月より琉球大学病院より沖縄赤十字病院に赴任いたしました。

出身は横浜で平成3年に東京女子医大を卒業後、横浜市立大学附属病院に10年間勤務し、皮膚腫瘍の手術や治療を中心に皮膚科・形成外科の臨床経験を積んで参りました。平成13年に縁あって沖縄に参りまして、平成13年12月から琉球大学医学部皮膚科医局に所属しております。

皮膚は体の病気を反映して症状が出現していることも多く、他科の先生方や地域の先生方と連携を取りながら地域医療に貢献できるよう努力していきたいと思っております。

ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

産婦人科 伊志嶺 梢



平成17年1月より琉球大学附属病院から沖縄赤十字病院へ赴任致しました。

赤十字病院は、充実したNICU体制のもとに、母体搬送例が多くあります。

このような環境の中で今後、緊急の対応をせまられる場面に数多く直面することと思っております。

知識や技術とともに判断力、決断力を養い、一人前の産婦人科医となるべく日々努力していきたいと思っております。

ご指導の程宜しくよろしくお願い致します。

新任Dr紹介



整形外科 岸本 幸明

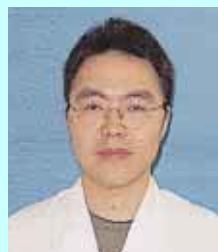
平成17年1月より赴任となりました岸本幸明と申します。

琉球大学を平成8年4月卒業後、2年間中部病院で研修し、琉球大学医学部整形外科に入局しました。リハビリテーションにも興味があり、一人の患者を最初から最後まで診ていけるような医師を目指しております。

幸い当院には回復期リハビリ病棟もあり、勉強する良い機会だと期待しております。

なにかと迷惑をおかけすると思いますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

眼科 薊 三千雄



平成16年7月より眼科に勤務させていただいております。

平成11年5月に琉球大学眼科医局に入局し、その後那覇市立病院、豊見城中央病院、県立八重山病院で勤務し、今年で6年目となります。

沖縄赤十字病院は大きな総合病院で患者様も多く、医師一人では手が回りきらない所もあります。特に待ち時間等でご迷惑をおかけする事もあると思いますが、スタッフ共々頑張りますので宜しくお願い致します。

「新潟県中越地震」日赤医療救護班活動報告



沖縄赤十字病院医療救護班
第1班 主事 上間 昇

平成16年10月23日(土)、夕方から深夜にかけて新潟県中越地方を襲った、「新潟県中越地震」は、震度7を記録した川口町、震度6強の小千谷市をはじめ各地に多大な被害をもたらし、その後も相次ぐ余震の恐怖に怯えながら、いまだに避難所などで不安な日々を送る住民も少なくありません。

日本赤十字社では、災害直後から、各地の赤十字病院の医療救護班が駆けつけ、救護所などを開設、また、巡回診療やこころのケア、救援物資の配布などの救護活動を展開してきました。

沖縄赤十字病院も、常設救護班5個班のうち「第1班」が、日本赤十字社の要請を受け、九州ブロックでの派遣計画のひとり「第3次救護班」として福岡赤十字救護班と共に、平成16年11月5日(金)～9日(火)の期間、被害の大きい小千谷市の「東小千谷中学校」を拠点として救護活動を展開して来ました。以下、現地での活動状況を大まかに述べてみたいと思います。



記

1 1月4日(木) 日赤沖縄県支部にて出発式を終えた後、沖縄赤十字病院救護班6名、沖縄県支部連絡調整員1名、計7名は、空路那覇空港から新潟空港へ向け出発。新潟市内で1泊した後、明朝早くに新幹線 車両を乗り継いで現地被災地へ入る予定。

1 1月5日(金) 新潟駅から長岡駅間は新幹線で移動、そこから東小千谷中学校までは、宮崎県支部の車両で移動し、現地へ到着。午後から福岡班が巡回診療へ出発、沖縄班は中学校内に設置したエアータントの救護所において、診療を開始。

1 1月6日(土) 9:00小千谷市保健センターでのミーティングのあと、沖縄班巡回診療へ出発。「信濃町公会堂」「元中子公民館」「木津団地」等を回り地域を広報しながら問診、血圧測定、診療、相談を実施する。(発災後15日経過しているせいか、受診者は思ったより少なく比較的落ち着いた様子だった。)

1 1月7日(日) 06:00昨夜降り続いた大雨のため、雨漏りこそ無いものの救護所の周りはぬかるんで水たまりだらけ、おまけに救護所のエアータントの空気が抜けて天井が落ちそうになり、その補修作業に費やす。

その後、小千谷市総合体育館視察、未だ2,000名余の方が所狭しと共同で避難生活を送っている現状に胸を詰まらせる。

1 1月8日(月) 今日から学校再開という事もあり、テントでの避難生活者も少なくなり、変わりに中学生の明るい声が校庭内に響いて、久しぶりにのんびりとした気分になっていた矢先、11:16分!震度4強の余震が襲い、校庭で立っていた我々もあまりの揺れにしばし茫然、校舎を見上げると全校生徒がカバンやバッグを頭に乘せ(頭の保護か?)全速力で玄関に向かって駆け降りる様子が目に飛び込んで来た。その後2度の余震が続き、結局11:34分校内放送で「全員下校!」のアナウンスが流れ、再開初日で早くも授業中断という事になってしまった。



午後、福岡救護班が無事任務を終え離任式の後、救護所を沖縄班に引継ぎ、帰任の途に着いた。

1 1月9日(火) 沖縄班も避難所での活動を終了し、第4次派遣の熊本赤十字救護班と引継ぎ式を行い、小千谷市役所の現地災害対策本部へ帰任報告の後、長岡駅 新潟駅 新潟空港 福岡空港 福岡市内で1泊

1 1月10日(水) 福岡空港 15:30那覇空港到着。沖縄赤十字救護班7名無事任務を遂行し帰任の途に着く。

追記; 11月14日をもって東小千谷中学校の拠点救護所は避難者0人のため撤収が決まった。なお、11月17日(水)~23日(火)まで当院下地照看護師長が、「こころのケア」で精神的支援のため長岡市に派遣され無事帰任した。

